

広報



かわにし

昭和58年 1/10 No.293

948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (☎02576-8-3111)

発行 町長 根津正三 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

(毎月10日発行)

人口の動き

— 1月1日現在 —

男 4,928 (±0)

女 5,021 (+1)

計 9,949 (+1)

世帯数 2,344 (-1)

(-) 前月比較

昭和58年が動き始めました。

雪なしの元日を迎えられるのではと考えていましたが、大みそかから降り出した雪は、町中をすっぽり抱んでしまいました。

元日の積雪量は分遣所で45cm、川西ダムでは50cmでした。

(写真は役場の屋上から5日の朝に撮ったものです)

1月の休日救急医

15日	山	口	医	院 (袋 町)
16日	富	田	医	院 (神明町)
23日	大	島	医	院 (川原町)
30日	中	条	病	院 (中 条)

2月上旬の予定

6日	山	口	医	院 (下 条)
11日	千	手	診	療 所

報告

議会

第八回町議会定例会が、先月二十二日から二十四日までの三日間の会期で開かれました。主なものとしては、二十二日は町政に対する一般質問、二十三日が五十六年度の各会計の決算認定、最終日の二十四日には条例の改正や一般会計補正予算などが審議され、いずれも原案どおり可決されました。

決算内容（一般会計）については別掲としましたので、ここでは、そのほかの概要をお知らせします。

一般質問に七氏が立つ

◆若山三郎議員

- ①校内暴力対策と教育のあり方
 - ②川西観光事業活動と取り組み方
- #### ◆根津町長

- ①青少年白書によると、非行少年は以前は高校生が多かったが、最近では中学校へとだんだん低年齢化している。中流以上の家庭が九〇パーセントを占めている。万引き、自転車ドロが主である。性格的には忍耐力が弱く、依頼心が強い自己中心主義の子供となっている。
- ②「にいがた景勝一〇〇選」に漏れて残念であるが、節黒城は先人から守られてきた景勝地で、地域の人とともに整備を進めている。若者が住みつくため、魅力ある町づくりをしたい。観光開発もそのうちのひとつである。まず町の施設を整備し、それを広域観光に移していきたい。

◆平野正義議員

- ①農協の金融と生活購買事業に対する行政指導は

◆根津町長

上町に新潟川西農協千手支所の

きた。

中学校の後援会を作りたい。学校と地域とのつながりを図り、町民こそって非行のない温かい学校となるように努力してほしい。

②「にいがた景勝一〇〇選」に漏れて残念であるが、節黒城は先人から守られてきた景勝地で、地域の人とともに整備を進めている。若者が住みつくため、魅力ある町づくりをしたい。観光開発もそのうちのひとつである。まず町の施設を整備し、それを広域観光に移していきたい。

◆上村広治議員

- ①役場職員の研修について

◆根津町長

上町に新潟川西農協千手支所の



定例会 2 日目

中央店が出店するが、これは、金融業務のみという。水口沢以南の組合員四百人の不便を解消するためのもので、購買事業は行わないとのこと。商工会も了解している。

購買事業の考え方は、組合員の農業生産力の増進と経済を守るために行うもので、地元商店との協調を図ることがたいせつである。川西町の発展のためにも、お互いが理解し合ってほしい。そのためには研究をしていかなければならない。

◆上村広治議員

- ①役場職員の研修について

◆根津町長

①行革に対応しなければならぬ。少数精鋭主義、最少の経費で最大の効果を上げることが課題である。

多様化、複雑化した行政の中で、明るく魅力ある町づくりのために、常に先取りの考え方が必要である。

そのためには研修に励まなければならない。県の地方課、自治大、学校への派遣研修や人事事務組合、県自治研修所など各種研修も受講させている。

町民に接する態度、とりわけ会話はたいせつである。接遇研修も行っている。

このほか、課内研修、郡市協議会などの研修もかなりの回数になる。経験を積ませ職員を育てていく。

戸田専治議員

- ①町道9号線の街路灯設置は

- ②国鉄信濃川発電所第五期工事の町への影響

- ③町立歯科診療所廃止までの経緯
- #### ◆根津町長

①モデル事業は二十六億円の総事業費のうち、五十二年から五十七年までの六年間で六億円消化したのみ。予算が付かないで、道路も手を付けながら完了しないものが多い。

9号道路も街路灯、消雪パイプなどが後回しになっている。街路灯は一基四十万円くらいかかる。維持管理や電料の負担の問題もある。受益地域が広範囲なので、地元と協議し公平な負担となるように調整しなければならない。来年度はなんとか予算化したい。

②濁水期の信濃川維持流量は現在より増えるようにするといっている。十日町市は反対の立場である。小千谷市、川口町とともに工事の促進期成同盟を結成した。十日町市、中里村からも参加してもらいたい。

工事によって被害を被った場合は、施工以前の条件よりよくなるよう補償してもらわねばならない。一期から四期工事までが完了しているが、国鉄は損害を与えてはいない。それを信じていい。

「信濃川をよみがえらせる会」の先生方とも話をした。反対理由は飲料水と農業用水に不安、地下水脈破壊、魚や水鳥が生息していないなどを上げている。地下水はボーリング調査でわかる。これにより生活権を奪われることはないだろう。

町へのメリットとしては、電源三法による交付金、発電施設所在市町村交付金が見込まれる。事業を始めれば固定資産税が入る。

九百億円というこの計画は景気浮揚につながり、もたらす効果は三、四倍にもなると国鉄はいっている。

現在は調査をしていいかどうかの段階である。

③事務の簡素化を考え過ぎたようであり、反省をしている。

56年度決算を認定 総額1億1,329万円の繰り越し

56年度の各会計の決算は別表のとおり認定されました。
一般会計の黒字は5,809万円、特別会計では、国民健康保険が2,990万円、農業共済事業が3,144万円の黒字となっています。
総額では1億1,329万円が翌年度に繰り越されました。

56年度各会計の決算状況 単位：円

会計区分	歳入	歳出	差引額
一般会計	2,704,106,576	2,646,009,388	58,097,188
特別会計			
国民健康保険	488,484,079	458,577,816	29,906,263
国保診療所	78,061,722	77,195,922	865,800
仙田へき地出張診療所	20,338,891	26,876,223	△6,537,332
歯科診療所	82,150,918	84,094,811	△1,943,893
農業共済事業	73,445,100	41,996,639	31,448,461
簡易水道	47,054,298	45,592,364	1,461,934
合計	3,493,641,584	3,380,343,163	113,298,421

◆戸田哲次議員

①人事院勧告の凍結と公務員共闘に対する考え、それに川西町職員の給与の実態は

◆根津町長

①人勧凍結問題については、政府は強腰である。現在審議中なので、町はその結果に従う。

川西町職員労働組合は、十二月十六日に統一ストの指令を受けて、十五分ほどの時間内集会を行ったが、行動は統制がとれていない。処

分については慎重に対処する。

ラスパイレス指数（一般職員の国家公務員に対する給与比率）は五十六年度九〇・〇から五十七年度は枠内の特別昇給や退職などの関係で九三・二になった。階層別にみるとバラつきがある。不均衡のないよう努めたい。

現業職員は、郡内でも低いので是正していきたい。

給与の公表は、今後必要とすれば考慮していく。

◆滋野一郎議員

①柳式自然融雪屋根について

②十日町大橋と県道小千谷十日町津南線の改良整備を

◆根津町長

①屋根雪処理は大きな問題である。柳式は県内外でも取り入れられている。除雪協力会の総会で講演をいただき認識を深めている。発明者の町として、いろいろの面で考えていく。

②大橋については、十日町市と川西町の両議会でも取り上げた。建設協会や十日町市、川西町道路網調査を行っている。千手の中心から沖立島の橋を利用し堤防を上流に向かい上新井地内の国鉄鉄塔の下あたりがということとでコンサル

意見書の提出

▽国家公務員給与引上げの人事院勧告完全実施を求める意見書の提出

人事院勧告は、争議権の代償措置であり、最低の保障である。

この凍結が経済活動に与える影響は極めて大きく、公企体職員、地方公務員給与、恩給、年金、さらには民間賃金にも波及し、個人消費支出を停滞させ、国民経済そのものを沈滞化させて財政再建のうえでもマイナスである。

したがって、人事院勧告を完全

タントが調査している。国、県道のバイパスとしての橋にしてみたい。

県道小千谷十日町津南線は、道路改良ということで願っている。十日町土木事務所長にも川西町の道路網を近いうちに見てほしいと頼んでいる。

◆小林寅雄議員

①雇用の拡大と企業誘致を

◆根津町長

①日本経済は資源を輸入し、それを加工して生きている。国際社会に積極的に参加しなければならぬ。農業の自立も必要となる。

米を中心とした川西町の農業であるが、土地をたいせつにし、ふ

実施するように。

との意見書が可決され、関係大臣に提出されました。

専決事項の承認

▽五十七年度一般会計補正予算（第六号）

百十五万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ二下九億二千八百六十七千円としました。

歳入では地方交付税が九十八万円、野球場使用料が十七万円増額され、歳出では歴史民俗資料館関係が五十万五千円、屋外体育施設関係が六十四万五千円増額されま

ることを愛してほしい。
地場産業の振興は急速にはいかないようだ。

誘致企業は定着してきた。それぞれ拡張計画も持っている。ここで働いている人たちは四百五十人である。

千手地区にも工場を求めたい。企業誘致は、町長と助役が専任のつもりで取り組む。事務は企画室である。

農業後継者問題も対策を考えなければならぬ。高速交通時代に入り、東京からも通勤農業が可能になるであろう。
若者が住みつき人口の減らない町にしていきたい。

した。

財産（土地）の取得

果鴨信用金庫研修保養センター用地として譲与するため、中屋敷地内の山林約二万五千平方メートルを土地代金、立木補償を合わせて千六百六十三万円で取得しようというものです。

財産（土地）の交換

これも果鴨信用金庫研修保養センター用地に関連しての土地交換です。

報告 議会 報告

一般会計は

四千三百八十七万円を追加

▽五十七年度一般会計補正予算

(第七号)

四千三百八十七万一千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ二十九億六千四百七十三万八千円としました。

歳入の主なもの、町民税の個人所得割が一千万円、農林水産業費、災害復旧費、補助金が千五百九十八万五千円増えたのに対し、中学校施設整備寄付金が千二百五十七万円減額されたのが上げられます。

歳出で目立つものは、保健衛生総務費の水道会計関係への繰出金が千八百二十万円、地域休養施設費の二千六百六十二万円、それに

58年度の転作目標

若干緩和の109.7ha

このたび、新潟県知事から昭和58年度水田利用再編対策転作等目標面積と58年度米事前売渡申込限度数量の配分の内示がありました。

58年度は第2期対策の最終年度に当たりますが、国は3年連続の不作という実状と、これにより米の政府在庫水準が低下し、若干の在庫増しを必要としていることから転作等目標面積の軽減を行うことにしています。

川西町への配分は次のとおりです。

◎配分数量 ()内は57年度

・58年度転作等目標面積
109.7ha (121.8ha)

・58年度米事前売渡申込限度数量

62,322俵

(60,626俵)

内訳 うるち米 58,912俵

(57,216俵)

もち米 3,410俵

(3,410俵)

◎町では、2月中旬ごろまでに部落ごとの配分を行う予定です。

条例の改正

万円あります。

▽藤巻褒賞基金の設置管理及び処分に関する条例の一部改正

藤巻力雄医師の寄付金を褒賞基金として活用させていただいていますが、基金の額を二百七万三千円に改正したことなどです。

▽特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

冬期集落保安要員の月額を改正しました。

▽災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付けに関する条例の一部改正

題名を「災害弔慰金の支給等に関する条例」に改めたほか、災害障害見舞金が設けられました。

九十万九千円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ五千四百六十六万八千円としました。

▽五十七年度簡易水道事業特別会計補正予算(第二号)

一般会計からの繰入金減が四百

ねん

きん

ふくし

サラリーマンの皆さん

奥さんを国民年金に

加入させて……

サラリーマンの皆さん、近ごろ奥さんの方で老後のこと、特に年金についての関心が高まっていることをご存じですか。

結婚と同時に家庭に入り、家族の中心として働き、そして老後を迎える……。

長年にわたり、苦勞をともにしてきた奥さんに、少しでもその働きをねぎらうためにも「国民年金」をプレゼントされてはいかがでしょうか。

奥さんが国民年金に加入すれば、夫婦そろって老齢年金を受けられます。そして豊かな老後の生活が送れます。また、まさかのときの保障も得られます。

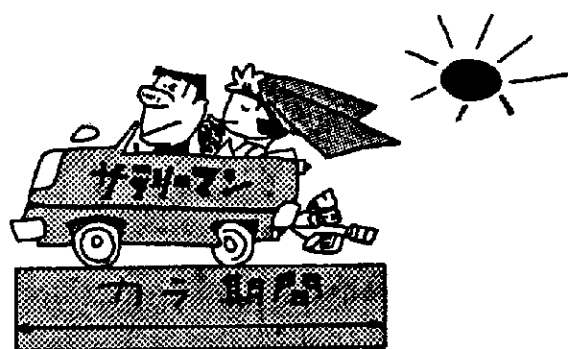
サラリーマンの奥さんは、ご主人が厚生年金などに加入していた期間(任意加入できた期間)が老齢年金の資格期間に算入されるのでたいへん有利です。(ただし年金額の計算には含まれません)

国民年金保険料は一月五千二百二十円(四月からは五千八

百三十円)。より高額な年金を希望される場合は、付加保険料一月四百円を合わせて納めることとなります。

もちろん納めた保険料はすべて社会保険料として、ご主人の所得税の控除対象になります。

サラリーマンの皆さん、日ごろの内助に報いる意味でも、ぜひ奥さんを国民年金に加入させてあげてください。



将来展望の上で 事業を選定

町長 根津 正三

昭和五十八年の新春を迎え、皆様のご健康とご繁栄、そして限りないお幸せを心からお祈り申し上げます。

町民の皆様には、それぞれの分野において、常に町政のために多大なご尽力をいただいておりますことを深く感謝申し上げます。

今年も世界的な経済不況が続く中で、厳しい新年度国家財政の政府案が決定しました。

国県に大きく依存する町財政も極めて厳しく多端です。その中で、より多くの皆様のご要望にこたえるよう真剣に取り組まなければなりません。変わらぬご指導とご協力をお願いいたします。

年頭のあいさつ

議会議長 小川 清次

昭和五十八年の輝かしい新春、明けましておめでとうございます。

昨年は、平年以下の積雪でたいへんしのぎやすい冬でした。また通年順調な天候に恵まれ、川西町では冷害や台風被害もほとんどなく、収穫の秋の気候はまれに見る晴天続きとなりました。おかげで水稲をはじめ、すべての作物が豊作だったうえに初雪も前年より約半月も遅く、天候にはほんとうに恵まれた年でした。

しかしながら、昨年もまた生産者米価の値上げは思うに任せず、すべての業界とも景気

申し上げます。

今年は十二支の十二番目、締めくくりの亥年です。川西町の亥年生まれの方々は七百八十九人です。当たり年の方々の幸せをお祈り申し上げます。



暮れに行った「八二年町の話題十大ニュース」の第一位は「川西米大豊作・上位等級米率県下二」でした。川西町の作況指数は一二・二と決定しました。中魚沼の平均が一〇・八、県が一〇・四、国が九・七でした。葉たばこも前

の浮揚が見られず、実に容易ならざる年でしたが、今年こそは、わずかなりとも景気の回復をと、年頭にあたり心から念じております。昨年十一月末には、鈴木内閣から中曽根内



閣へと政権の交代がありました。内閣が代わったからといって世界的な不況の中で日本の経済が急に好転するとは思われません。これらにおくすることなく、川西町発展のため今年も最善を尽くし、町政運営の「チェ

年より面積が減りましたが、総収納代金二億円を達成しました。穀類、芋類なども昨年は大豊作でした。一連の基盤整備や生産組織が軌道に乗ったものと喜んでおります。

五十八年度は、町総合開発計画第四次五年計画を策定する年です。大きな転換の時代に入り、町発展のため有益な事業を重点的に進めるためには、経費をできるだけ切り詰めておいて対応しなければなりません。臨時行財政調査会の答申も五か年計画に盛り込まれることとなります。お互いにがまんし、痛みを分かち合って、将来の発展と幸せを勝ち取らなければならぬと存じます。

激動する諸情勢に対応しながら、役場職員一同心を合わせて、町民の皆様のご期待に添うよう、さらに決意を新たにしております。今年もいっそうのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「ク」に誤りなきを期し、町民の皆様のご期待に添うべく、決意を新たにしております。

川西町は、近隣市町村に比べ農政面は進んでいます。また、教育、道路、治山治水はもとより、社会福祉や保育施設などの面でもおむね充実を見ることができました。今後は消滅集落対策をはじめとして、福祉、安全対策、青少年の健全育成、それから若人の職場開発等々、地域の振興に向けて町民の皆様の総意を傾注いたしまして、ますます町の発展を願うものでございます。

今年も川西町各地域の実情を把握し、調和のとれた町づくりを進めるため努力いたす所存です。なにごとの協力をお願いいたします。年頭にあたり一万人の町民のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

新しい囑託員

① (敬称略)

【千手地区】

○中島町・佐藤茂夫、○山野田・清水利孝、○発電所通西・藤田宏太郎、○発電所通東・関周一、○永久公舎・南雲秀雄、○栄町・滝沢実、○山野田住宅・北村英也、○朝日町・田中正樹、○四郎兼・南雲春芳、○東善寺・丸山禮、○上町・真明正人、○中央町・星名秀利、○田中町・市川信二、○神社町・清水喜作、○学校町・小海三郎、○中屋敷・南雲利夫、○寺尾・白井公子、○木島町・丸山正作、○沖立・星名富一、○伊友・星名富一、○高原田・村山勇太郎、○坪山・高橋哲男、○霜条・星名昇、○鶴吉・田村守平、○木島公舎・堀隆行

【上野地区】

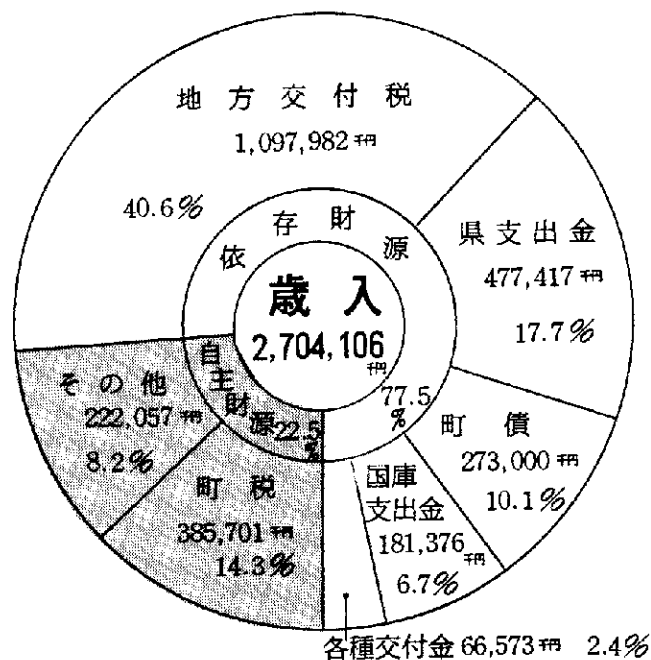
○上野・上村辰栄、○新町新田・内山弥太郎、○三領・高橋一郎、○小根岸・小海正吉

【橋地区】

○木落・和久井シヨウ、○寺ヶ崎・藤巻敏志、○塩辛・藤巻勇作、○仁田・戸田久仁、○野口・滋野正治、○原田・丸山道子、○根深・藤田富雄、○下原・丸山優

「川西町」の家計簿

～56年度一般会計決算～



町民1人当たりの税金

町民税	13,457円	電気税	1,883円
固定資産税	19,919円	木材引取税	16円
軽自動車税	724円	特別土地保有税	37円
たばこ消費税	2,507円	合計	38,543円

昭和56年度の各会計の決算がまとまりました。

今回は、一般会計決算を紹介いたします。いわば、1万町民の家計簿ともいわれるものですから、その概要だけでもおつかみいただければ幸いです。

決算額を前年度と比べると、歳入で三・五%、歳出では二・六%伸びています。前年度、前々年度とマイナスタのたがようやくプラスに転じました。歳入の状況は、町税が順調に伸び、自主財源の構成比は二二・五%で前年度より一・四%上回りました。歳入のトップを占める地方交付税は四〇・六%です。県支出金の伸び率は二七・二%で前年度を大きく上回りましたが、これは、農林水産業費や歴史民俗資料館建設の補助金などの増によるものです。町の借金である町債は一八・七%の減でした。

一方、歳出では、人件費の伸び率がわずか〇・五%でした。建設事業などへの投資的経費は九億九千七十万円で前年度より五千八百五十八万円の減でした。これは、国庫の厳しい財政事情や公共事業の抑制などが反映したものです。前年度対比四〇%の伸び率を示した農林水産業費は新農構事業や東京電力関係、融雪対策による増が含まれています。災害復旧費の四五・二%の伸びは五十六豪雪による融雪災害の復旧によるものです。伸び率を下回ったものには教育費などがあります。教育費では前年度の千手小建設費が大きかったためです。町債の五十六年度未借入残高は二十三億一千万円ほどあります。歳入歳出差引額は五千八百九万七千円の赤字となりました。経費の節減に努めた結果として評価されるものは、臨時行財政調査会の答申によるものは、これから期待されます。

町史コーナー

編さんの動き

こぼれ話 第三集 今月末に刊行

「町史こぼれ話」の第三集がようやく今月末刊行となります。町史編さん室が、総合センタから、伊友の民俗資料館へ事務室を移したという経過もあって、正直のところ町史編さんの話の編集も思うように進みませんでした。

昨年十一月には刊行すると約束していたものが、二か月遅れでようやく目の見るようになった不手際をお許しただきたいと考えます。

ところで、今回の第三集は、かなり欲ばった内容をもって構成しました。せっかく作るのだ

から、あれもこれも……と無理に挿入したこともあって、そのことが逆に、メインテーマに欠けるのではないかと、編集過程での批判もあったほどです。つきつめていうなら、これまでに発表された、あるいはうずもれていた職者の所見や、貴重な資料を、多くの方々にお目どおし願ひ、また、それら資料の散逸を防ぎたい、そんな気持ちから、つい無理をする結果になったことをご理解いただきたいと思っています。

さて、第三集の内容は、大きく分けて四つの部門で飾ってみました。以下、そのアウトラインをお知らせいたします。

第一部 調査の過程で

川西町史の調査・執筆分担が決定したことは、昨年五月号でお知らせをしておりました。その後、調査専門委員や特別執筆者の皆さんには、それぞれの担当分野で調査、研究活動が続けていただいています。それらの過程で発見した新事実、あるいは裏付け資料の提供呼びかけ、所感などを寄稿していただいたのがこの部門です。

町の自然や民俗、中世、近世など十二名の方々から記述していただきました。

第二部 遺稿・寄稿の中から
こぼれ話を発行してから、大

教育費 370,649千円

- ▶千手小学校周辺整備工事5,950
- ▶スクールバス委託料6,160▶歴史民俗資料館設計監理委託料5,000
- ▶歴史民俗資料館建設工事118,400



歴史民俗資料館

土木費 256,015千円

- ▶国県道工事費負担金20,478▶道路台帳作成5,730▶町道補修等工事7,885▶道路改良工事33,744▶舗装工事31,805▶改良舗装工事18,000▶補償料6,549▶防雪対策工事25,683▶特改四種工事13,206▶小白倉砂防工事7,800

災害復旧費 136,328千円

- ▶農地農業用施設83件70,792▶公共土木施設34件39,979

公債費 291,049千円

- ▶元金145,381▶利子145,668

諸支出金 18,650千円

- ▶教員住宅譲受代金18,650

労働費 557千円

農林水産業費 554,964千円

- ▶春季異常豪雪対策事業除雪機械等借料10,228▶基盤整備事業補助金5,000▶三領原農道整備工事14,977▶地域休養施設用地地買収費5,368▶新農業構造改善事業補助金130,944▶農用地利用増進特別対策事業補助金21,666▶農用地高度利用促進事業補助金5,920▶モデル道路整備工事19,829▶フラッシュ施設整備工事73,945▶集落下水道整備工事11,288▶財政調整基金積立金7,000▶林道開設工事28,160▶作業道羽黒峰線舗装工事7,950▶杉苗代5,939



新農構の加工施設

商工費 19,630千円

- ▶地方産業育成資金貸付金8,000

消防費 92,171千円

- ▶広域消防費負担金88,274

56年度一般会計

歳入	2,704,106,576円
歳出	2,646,009,388円
差引黒字	58,097,188円

◆主な歳出◆

議会費 45,463千円

総務費 391,357千円

- ▶中子用地購入費50,000▶基金積立金8,916▶久保山用地購入費22,019

民生費 306,548千円

- ▶あかね会補助金20,621▶なかまの家福祉会補助金5,900▶国民年金印紙購買基金繰出金9,000▶医療費扶助58,241

衛生費 162,428千円

- ▶衛生施設組合負担金44,990▶歯科診会計繰出金23,071▶簡易水道会計繰出金21,500▶水道事業会計繰出金17,000▶各種検診等委託料6,168

ぜいの皆さんから、いろいろな面でアドバイスをいただいています。参考資料の寄贈や長文をしたためた玉稿を寄せてくれる人もあります。

今回は、そうした中から浦和市在住の登坂博さん（岩瀬出身・岩瀬の歳時記）と中屋敷の山賀春江さん（川西町に住んで、思い出の草花）を掲載しました。

遺稿は、赤谷出身の高僧、滝谷琢宗禅師の書かれた道中日記です。禅師が現小国町から川西を通り、三國街道を越えて江戸駒込の吉祥寺まで、五泊六日の旅をしたときのものです。

漢文調のため、現代風に解文したとはいっても、読みにくい部分も多少あります。時代感覚を忠実に伝える配慮ゆえであることをお含みください。

なお、この遺稿は、中仙田出身の高橋幸治さんのご好意により入手できたことをつけ加えておきます。

第三部 町史ごぼれ話

第一集でもこのタイトルでご覧いただきましたが、これまでに広報紙ほか各種新聞紙などで発表されたものを再録したコーナーです。

例えばそのいくつかは、
○旅かせぎのいましめ
○仙田村小前騒動

○強かった幕府の支配力

○荷継場のあらそい

○会津戦争と川西町

○昔は悲しお正月

○仙田は平家の落人か

○あこがれの江戸ゆき

○千手のむかし

○一枚の洗たく板

○先人の歩みと紋瑞和尚

○三領のオノコサマ など、

なお、この部門では、千手の昔物語（田中町出身・故小野塚卯吉さん）も、関係者の了解を得て掲載しました。

これは、昭和四十七年の秋、十四回にわたり十日町新聞に連載されていたもので、懐かしい話や記憶を呼び戻してくれる内容が、豊富に折り込まれています。

なお、第四部は、町史編さんの動きについてお知らせしてみました。町史の具体的な内容とそれを記述して下さる方々の名前を明らかにしたものです。

——お知らせとお願い——

ごぼれ話第三集は一冊千円で、ご希望の方は、近日中に嘱託員を通じて回覧される申し込み用紙にご記入ください。編さん室へ直接お申し込みくださってもけっこうです。（歴史民俗資料館内町史編さん室・☎八二二二、有線三〇九四）

70歳以上の方の医療

2月1日から

老人保健法で

「健やかな老後」とは、人間だれしも願うところ。それに関し「老人保健法」が創設されましたが、その背景について記載してみます。

日本人の平均寿命は、男性が七十三・七九歳、女性が七十九・一三歳と、どちらも史上の記録を書き換えており、やがては八十歳を突破するであろうといわれています。このことは、昭和八十年ごろには国民の四人に一人はシルバーシートにする勘定になります。平均寿命が伸び、出生率が低下

してきたのに伴い、老人保健については大きな問題になってきております。

一般に、人口構成として、零歳から十四歳までの就学年齢人口、十五歳から六十四歳までの生産年

老人保健法 創設の背景

齢人口、そして六十五歳以上の老

齢人口の三つに大別されます。今後、生産年齢人口が減少傾向にあり、高齢人口が急速に上昇していくといわれていますが、このことは老人医療費がますます増え、

国の財政はもとより、町の国保財政にも大きな重荷となってきます。しかも、問題は医療費のことだけでなく、老人扶養の問題や、生きがいに通じる老人の仕事や、求めていくかという問題も出てきます。

ヨーロッパ、特に北欧では老人人口の上昇度は八十年から百年もかけてゆっくりとしたテンポで増えてきましたが、日本では二十年から三十年という短期間で急ピッチ

の増加です。問題は大きく異なるわけです。それにもう一つ大事なことは、日本国内の老人人口比率には地域差が大きいということです。全人口に対する高齢人口比は、国で五・九パーセント、新潟県で一・七パーセント、川西町では一五・〇パーセントです。

老人保健制度は、壮年期からの総合的な保健対策を推進し、国民が健康な老後を迎えられるようにするとともに、老人の医療費を国民が公平に負担することを主なねらいとしています。

お医者さんの

かかり方

七十歳以上（六十五歳以上の寝たきりの人）の人には、一月末日までに健康手帳をお渡しします。お医者さんにかかるときは、この「健康手帳」と「健康保険証」を受付窓口に掲示しなければなりません。

これは「健康手帳」によって受診資格を、また「保険証」によってどの医療保険に加入している人かを明らかにするためです。

自己負担が

あります

お年寄りに健康への自覚と適切な受診をお願いするとともに、医療費は国民みんなが公平に負担し

で行うことになっていきます。

川西町では健康管理室で取り扱います。

保健サービス

対象は四十歳以上

健康な老後を過ごすためには、壮年からの健康管理がたいせつです。老人保健法では老人の医療だけでなく、四十歳以上の方々を対象として、健康づくりや成人病の予防などの保健サービスを行います。次のような保健事業があります。

①健康手帳の交付

老人医療の給付対象となる方と、希望される方に交付します。医療

と日常の健康管理に役立たせてください。

②健康教育

保健学級などによって健康教育を行い、正しい知識を広めていただきます。

③健康相談

心身の健康に関し、個別にいろいろ相談に応じ、必要な指導、助言を行います。

④健康診査

循環器とがんを中心に、年一回の健康診査を行います。

⑤機能訓練

脳卒中などの後遺症で、体の不自由な方に対して行います。

⑥訪問指導

寝たきりの方などに対し、保健婦などが訪問指導をします。

今まで無料だった医療費も一部負担しなければなりません。

老人保健法の内容をかいつまんでお知らせします。

婦人生活改善グループ

「ひまわり会」の軌跡

寺尾 南 雲 良 さん

この文は、南雲さんが昭和57年度毎日農業記録賞（毎日新聞社・富民協会主催）に応募され、新潟地区入選をされた作品の概要を、ご本人からお書きいただいたものです。

賞状と盾の伝達は町長が行いました（12/28）



はるかなブナ林の間にお寺の屋根がちよつと見えて、稲かけ用のタモの木が並び、大小取り混ぜた田が曲りくねった細い道になだらかに続いていたころがありました。

昭和四十六年に段丘の地千ヘクタールのほ場整備が着工され、四十八年に第二次農業構造改善事業が始まりました。農地は一変し、一枚三十アールの田に機械植えされた稚苗がすっぱり冠水した姿は、これからの管理の不安をひしひし感じさせました。

新しい米作りを担う主婦として勉強の必要を感じたり、農協店舗でも町の店でも季節に関係なく野菜が並び、パートで働いてできあいのものを買って……といった農家の風景を見て、農村のよさはどこへ……と私はもやもやしたものをついつい持っていました。

こうしたとき、県農産普及課認定の農村地域婦人リーダーに選ばれました。リーダーとしてのあり方を学び、指導をいただきました。これにより勇気のような、また責任のようなものを強く感じた私は、とにかく仲間を作ろう、土に親しむグループを、といまままでのすべての経験をもとに考え続けました。

日本でも有数の寒雪地ということもあってか、老人自殺の多いこの町。関係者はどうしたものかと嘆いたものでした。そこで、土を大事にしなごら、老人のために何か役立つ生産と福祉の両面を抱いたグループを決心しました。さっそく普及所の方に相談し力強い励ましをいただきました。農協、普及所、役場の指導も適切で前向きに進んでくれました。呼びかけに同意してくれた仲間が集まり、「ひまわり会」が誕生したのです。五十年のことでした。

おりもおり、老人クラブの会長さんから「

花作りをやりたいが畑を貸してくれまいか」という申し込みがあり、「いっしょにやりましょう、私どももお手伝いします」とここに老人も含めた混成チームの誕生です。

幼稚園の大時計のよく見える荒地を耕し、農協、普及所の指導をいただきながら、農協に出荷できる白ウリ、ナスを中心に作付けしました。「畑のある日は朝起きるのが楽しみだ」というおばあさん。「この年になっても必要とされて声がかかる」と喜ぶおばあさん。私たちは、季節の野菜の手入れや稲の管理の指導を受けながら、それぞれの立場で何かをつかんだようです。

秋のだいこんまきが終わり、一段落したころ、精神薄弱者更生施設「なかまの家」からよしずを作る材料になるよし刈りが人手不足だということで応援を頼まれ、全員で参加しました。汗をふきふきの作業でしたが、よし束の山を見て、はじめてボランティアということをした満足感で帰途につくのでした。雪道を慰問がてら訪れてのよしの皮むきなど、よし刈りとともに五、六年続けています。

おばあさんたちの、長い雪の冬を過ごす悩みを聞き、編物、文化ししゅうを計画し、いっしょにやりました。年金を文化ししゅうなどに生かしたいというおばあさんたち。力強く生きてこれたおばあさんたちの現在、人年金などで物質的には恵まれています。人と人の触れ合いが何よりうれしく、その姿にあらためて考えさせられます。

ささやかながらお年寄りとともに歩むよさを農協の普及員さんに取り上げていただき、「年寄りの笑顔」と題しテレビ放映されました。

秋のだいこんの出荷が終わると作業も終わ

ります。取れただいこんで「おでん」、あずきで「お汁粉」というささやかな収穫祭ですが、「なかまの家」の人たち全員をお招きして、お互いにかくし芸を出し合いながら楽しい一日を過ごしました。また、夏野菜の出荷の残りを漬けておき、福神漬を作って町中の一人暮らしのお年寄りにお配りしています。

こんな年中行事を繰り返していますが、町から認めていただき、五十五年に表彰されました。大地に触れる喜びをかみしめながら、農村ならではのボランティアおばあさんたちを含めたグループ活動は、これからもささやかに歩み続けることでしょう。

転作のあり方を考え続けていましたが、生活改善グループということで、転作組合から「集団転作の婦人部の中心になってもらえないか」と依頼されました。織物の不況で主婦の大事なお機も整理されていく現状に、主婦が上に親しむよい機会になるのではないかと、手を取り合って一つの事に取り組み、むつみ合いの場にそれも土を生かした生産に、と農協婦人部の方々といっしょに三十アールの転作計画ができました。カボチャ、枝豆、スイカ、メロン、秋には野沢菜で締めくくられました。力を合わせた成果も認め合いました。関係者のご努力によって木の香もかぐわしい中屋敷集落開発センターが五十七年にできました。このセンターをよりどころにし、集団転作に取り組んだ若いお母さん方を軸としたグループにバトンタッチして、私なりの夢、農産物加工などを自分の手でと目覚めた農村主婦たちの場所として、集落開発センター玄関に「農村婦人の家」の看板がかかげられたらと、音もなく雪の降り出した窓辺で考え続けております。

こうほう びば

今回は、新年を迎え、今年も京都で走ろうと張り切っている十日町高校駅伝トリオに焦点。

都大路をひた走り

川西健児 ー 高校駅伝 ー

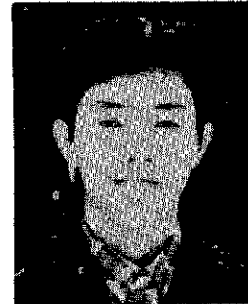
川西中学校出身者が三人入っています。小林君は三区8・1075キロ、市川君は七区5キロを走りました。丸山君は残念ながら出場できませんでした。

二人はスキークロスカントリーの選手で、京都から帰ってくるなり合宿に入り、津南の妙法牧場に出かけてしまったので、感想は元口によっとお会いし、聞かせていただきました。

昨年の十月三十日、秋晴れの新発田市郊外で行われた県の高駅伝で、十日町高校が2時間19分02秒のタイムで優勝し、全国大会への出場キップを手に入れました。全国大会は、十二月二十六日に雨の降りしきる京都市内の42・195キロ(七区間)で繰り広げられ、十日町高校は2時間18分01秒で41位になりました。十日町高校チームのメンバーの中に、

全国のレベルひしひしと

丸山 道弘君
(2年・高原田)



全国高校駅伝大会に二十二年ぶりに十日町高が出場しましたが、県大会ではまさか優勝するとは、という感じでした。監督も3位をねらっていたようでした。でも、

僕らの中には、もしかしたらという気持ちがありました。結果は優勝候補を破り1位でした。そして北信越を終った全国大会でした。順天堂大学での合宿をこなし大会に臨みました。みんなは県大会がタナボタ式の優勝ではないことを証明するために、県大会の記録を少しでも縮めることが目標でした。

今年も全国大会に出場できるように努力します。

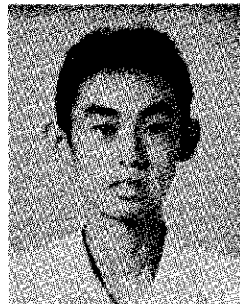
三日前に京都へ入り調整と試走をしました。

当日二十六日は雨が降り寒い日でした。いつものようにウォーミングアップをし、三区にたすきが渡されました。走っていたときのことはあまり覚えていません。前の選手を追い越そうと、そればかり考えていたようです。

今年もまた京都へ行き、今回よりもよい成績を出したいものです。

前の選手を越そうと懸命

小林 俊久君
(1年・中島町)



県大会で優勝し、うれしくうれしくてたまりませんでした。でも、その後これからは全国大会で走らなければいけないという気持ちになりました。県の代表として

りっぱに走って責任を果たさねば、とそれから必死に練習をしました。人間窮地に立たされると必死にやるように、記録もいつものコースで30秒くらい速く走れるようになりました。

その後、千葉の順天堂大学で合宿に入り、順大の駅伝部の人たちの胸を借りて練習をしました。タイムも10キロでベストタイムを出せ、調子も上りぎみで合宿を終え、

一時は、正選手から外されてしまいそうだと、あきらめかけたこともありました。しかし、そこで辛抱したことは、自分に大いにプラスになりました。この気持ちを忘れずに、これからがんばりたいと思います。

全国大会では七区のアンカーを走りました。感想を一言でいうと、思っていた以上に厳しかったです。自分個人の記録も前々日の試走より

今年も京都を目ざす

市川 敦君
(1年・中屋敷)



全国大会への正選手選考では、ずいぶん苦労しました。二十一日に京都へ行くまで体調を崩したり、ひざを痛めたり、自分の健康管理のまずさを思い知らされました。

今年も全国大会に出場できるように努力します。

三日前に京都へ入り調整と試走をしました。

当日二十六日は雨が降り寒い日でした。いつものようにウォーミングアップをし、三区にたすきが渡されました。走っていたときのことはあまり覚えていません。前の選手を追い越そうと、そればかり考えていたようです。

今年もまた京都へ行き、今回よりもよい成績を出したいものです。

今回の遠征は、あらゆる面でプラスになることばかりでした。もういっしょに精神を克服し、今年も京都を目ざします。

助産婦さんの献身に感激

母子健康センターにて

高原田 大塚 千恵 子さん



すすすす言つ「有沙」ちゃん

「オギャー」と力強い泣き声とともに「女の子ですよ」と教えられる。「エッ、ウッソー、ホントウッ」というやいなや、私は赤ちゃんと負けないほどの大声で「ワァーン」と泣き出してしまった。

こうして、なんともにぎやかな町立母子健康センターでの愛児出産はめでたく終わった。私は二十も半ばになったのに、どうしても女の子が欲しいと願いを込めて出産

に挑戦したのだった。

上の子二人は、病院でお医者さんの手をわずらわせての分娩だったが、自然分娩だけで、というセンターで、人一倍大きな私は、まだ予定日一か月前から、「ちょっと変よ」「少し痛い」「生まれそうよ」と騒ぎたてて、毎日助産婦さんが心配して電話を下さったり、全面的にご迷惑をかけたが、結局予定日を過ぎてからの出産だった。

このセンターの助産婦さんは、産婆さんという言葉がびっぴりたる人たちが四人若いころからもうなん千人もの赤ちゃんを取り上げた超ベテランばかりである。それなのに、最近センターの利用者がたいへん少なくなっているという。私も以前は、心細いと思ったものだが、今回センターでの自然分娩を体験して、こんなにつきっきりでみてくれて、こんなに自信をもって指導してくれて、産婦に安心イ



静かな環境の母子健康センター

コール安産という最大なものを与えてくれた助産婦さんに、すっかり感激させられてしまった。

もうすぐ七十歳になるという主任助産婦さんは、先日厚生大臣表彰を受けられ、毎日バイクで妊婦訪問や産後訪問にますます元気で飛び回っている。ここで働く助産婦さんたちには、「老い」という言葉は無縁のようである。なぜなら、この人たちにとって産婆という仕事は心の栄養剤になっているのだから……。

多くの人の喜びを、自分の喜びとして献身されている助産婦さんに、娘の誕生の喜びを感謝に代えて、心から「ありがとうございませう」とお礼を申し上げたい。

日一日とかわいくなつていく娘を見ながら、私は今ルンルン気分の日々なのである。

わたしの趣味

彫塑——子供を専門に

上野 根津 敬一郎さん

根津さんは、十日町市立東小学校の先生である。

昨年の十日町市展に「少女」という石膏の像を出品し、彫塑の部の市展賞に輝かれた。

彫塑とは、彫刻あるいは原型により粘土や石膏で像を作ることである。

「彫塑は作る人が少なく、出品数も少ないですヨ」

モデルの真樹子ちゃんと



五年ほど向かっていなかったそうだが、見附市から昨年戻ってきたのでまた始めたとのこと。「散らかる仕事ですからね」

六年ほど前にも彫塑で市長賞を受賞されている。県展にも彫塑や洋画を出品し、たびたび入選しておいでだ。

彫塑を本格的に始めたのは教員になってからのこと。

「子供たちに図工を指導するには理論だけではだめですからね。自分で作ってみて、それから教えることがたいせつです」

「少女」は昨年の夏休みに制作したそうで、粘土で原型を作り、石膏で型を取り、それにまた石膏を流し込み、着色して仕上げています。

「モデルは娘（写真の）ですヨ。それを小学生くらいの感じにしたものです」

真樹子ちゃんは三歳である。「ほぼと目とおでこに気を配っています。削ったり、石膏をなん回もくっつけたりしました」

お子さんができてからはモデルには不自由しないとのこと。

「彫塑や洋画をこれからも続けていきますが、人物、特に子供を専門にやりたいです。お遊びの域を出ませんがね」。とけんそんされた。

お知らせ

母子センター案内

1月17日	妊婦相談
23日	安産教室
24日	乳児検診 (56年12月、57年7、9月生)
26日	3歳児検診 (54年12月～55年2月生)
2月2日	妊婦検診
7日	1歳6か月児検診 (56年7～9月生)
9日	妊婦相談

58年度の

農業標準貸金

川西町農業委員会では、このたび昭和五十八年度の町の農業標準貸金を決めました。

◆男子 (一日) 五、四〇〇円

◆女子 (一日) 四、七〇〇円

実施期日は四月一日からです。これは、あくまでも標準貸金です。地区の実情などにより変更もあります。

十日町高校

定時制中心校が

生徒募集

▼募集人員 普通科一学年四十人
▼願書受付 二月一日 (火) から
二月八日 (火) の正午まで

停電のお知らせ

- 1月26日 (水) / 午前9時30分から午後0時30分まで、山野田の一部・発電所通りの一部・中島町の一部。
- 2月2日 (水) / 午前9時から午後1時まで、高原田の一部・上野・下平新田。
- 2月8日 (火) / 午前9時30分から午後0時30分まで、中仙田の一部・赤谷・岩瀬・大倉・大白倉・小白倉。

▼出願手続 入学願書、受験票、調査書、入学考査料 (三百五十円) を在学 (出身) 中学校長を経て、十日町高等学校長へ提出してください。

▼入学試験日 三月十六日 (水)
▼学力検査の教科 国語、社会、数学、理科、英語の五教科
※詳しくは、十日町高等学校定時制中心校へ問い合わせてください。
(五〇二五七五—二二五七五)

最近の建物共済事故発生状況

(自然災害を除く農業共済取扱分)

発生日	月	損害状況	部 落	発 生 原 因
S 48	4	全 焼	伊 友	豆炭コタツ不始末
"	9	部 分	鶴 吉	石油ストーブ不注意
49	7	"	中仙田	落 雷
50	3	"	室 島	石油風呂釜不注意
"	4	全 焼	野 口	石油風呂釜不注意
"	9	部 分	霜 条	たばこ不始末
"	9	"	仁 田	落 雷
52	1	"	山野田	自動車の飛び込み
53	2	全 焼	根 深	石油ストーブ不注意
"	2	"	"	類 焼
"	10	部 分	霜 条	たばこ不始末
54	1	"	三 領	豆 炭 不 始 末
"	3	全 焼	学校町	石油ストーブ不注意
55	3	部 分	野 口	プロパンガス爆発
"	12	"	中仙田	油 鍋 の 過 熱
"	12	全 焼	原 田	豆炭コタツの過熱
56	5	"	上 野	プロパンガス不注意

建物共済

目いっぱいのご加入を

町の農業共済で実施している建物共済は、町のほとんどの皆さんからご加入いただき、百二十億円の実績に基づいて、万一の火災に備えております。

別表でもおわかりのように、火災の発生は、十二月から三月までの冬期間が半数以上になっております。そんなことで、以前からこの時期に建物共済の加入推進をお願いしております。

短期共済の

有利性を生かして

長引く不況で、どこのご家庭でも

厳しい家計のやりくりに追われていることかと思えます。こんなとき、多額の掛金を支払う長期の保険よりも、一年ごとの短期共済は、

わずかの掛金で高額の補償がつく有利な方法といえます。

経済変動の激しい社会では、二十年、三十年後の満期金より、今日、明日を支える建物共済こそが、最も頼りになる制度として、多くの皆さんからご加入いただいている理由でもあります。

別表のように、火災事故の半数が全焼となっていることから、何よりも、もし我が家が火災になったら、再建するのにどれくらい資金が必要なのかを考えておくことがたいせつになってきます。

建物共済は

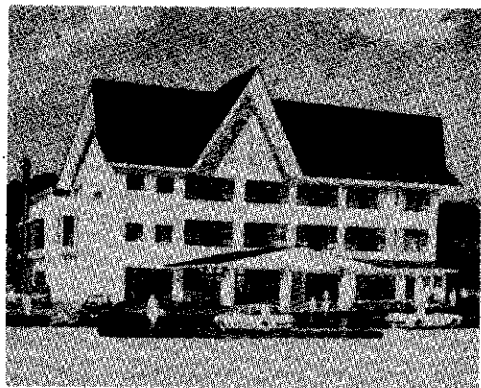
高額加入の時代

不幸にして事故に遭われた多くの人たちから、「建物共済に入っていたよかった」と感謝され、同時に「もっと高額に加入したい」としみじみ語っておられます。

建物共済は、多くの皆さんの力と信頼に支えられています。幸い五十七年度は、町はじまって以来の大豊作となりました。この機会に、念がけていた我が家の建物共済を、限度額いっぱい加入されるようお勧めします。

部落の共済連絡員が建物共済の加入推進にお伺いしたら、掛金のこと共済金額などについて相談され、ぜひ、納得のいく額までご加入くださるようお願いいたします。

- 次の善意が寄せられました。
- ◆一般寄付金
 - ※丸山工務所から百万円
 - ◆社会福祉協議会へ
 - ※詩吟神風流絆吟会川西支部（代表・南雲浩風さん）から三万円
 - ※保坂五郎作さん（沖立）から三万円
 - ※渡辺早苗さん（東善寺）から二万円
 - ※星名一正さん（伊友）から三万円
 - ※蔵品勲さん（上野）から三万円
 - ※丸山甲子一さん（学校町）から二万円



地域休養施設の

従業員募集

次により地域休養施設の従業員を募集します。

◎募集する職種と条件

- (1)調理員 若干名 年齢50歳未満
普通自動車の運転免許
所有 調理士の資格を
有し経験豊かな人
(特に夫婦で住込可能な1組)
- (2)男子従業員 若干名 年齢不問
大型自動車運転免許所
有
- (3)女子従業員（パート含む） 若
干名 年齢不問 バイ
クなどに乗れ自分で通
勤可能な人

◎応募締切

2月末日（役場総務課到着のもの）

◎応募方法

履歴書（市販用紙による）に写
真1枚を添付し、総務課長へ提出

◎面接

3月上旬総合センターで

◎採用発表

3月末日 本人あて文書通知

名称募集、締め切り迫る

地域休養施設の名称を募集中で
すが、締め切りの1月31日が迫っ
てきました。『親しみやすく、地
域および現代にマッチした名称』
をお寄せください。

ハガキ1枚につき1点の作品と
してします。住所、氏名、年齢、
職業も明記し、役場産業課へ送付
ください。（1月31日の消印まで
有効です）

庁内人事

※配置換え／1月1日付
千手診療所・山口隆也（総務課）

もうすぐ1年生

千手小で健康診断を行う



川崎先生から検診していただく
新入学児童の調べ

千手小学校	68人	男子35人	女子33人
上野小学校	30	20	10
桶小学校	26	11	15
仙田小学校	19	11	8
〃小脇分校	1	1	0
白倉小学校	3	3	0
高倉小学校	0	0	0
計	147	81	66

新しい年を迎え、気持ちを引き締め
ておいでの方は大ぜいいらっしゃるこ
とでしょうが、とりわけ今年小学校へ
入るお子さんと、そのご家族の方は張
り切っていることと存じます。

先月十五日に、千手小学校で就学時
健康診断が行われました。質問にはハ
キハキ答えていましたが、視力が一
〇以下の子供がほとんどで気になりま
した。

町内
さんぽ

くしとけんこ

太り過ぎに注意

「ベルトが伸びれば命が縮む」という言葉を存じですか。中年になって太ってくるのは健康への赤信号です。

肥満の原因

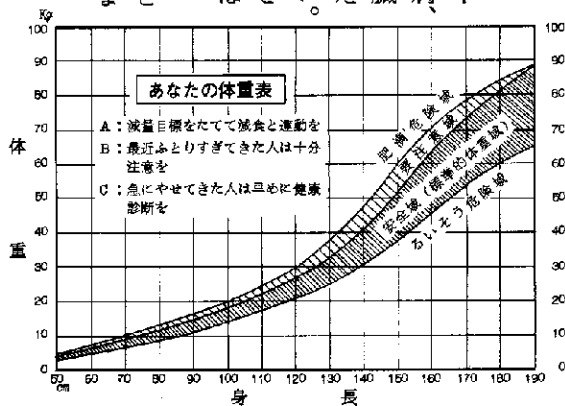
最近では、運動不足やカロリーの取り過ぎから肥満の人が増えています。これは体内に取り入れられたエネルギーのバランスがとれていないために起こります。摂取量が多過ぎ、消費量が少ないと余分なエネルギーが脂肪という形で体内に蓄積されます。

①短命のもと……太った人は正常な人に比べて死亡率が高い。

②成人病の原因に……肥満体の人には、糖尿病、心臓病、高血圧、肝臓病、動脈硬化といった成人病にかかりやすい。

③足腰が弱って機敏さが失われる……肥満は運動神経を鈍くさせ、また無理に運動すると心臓に負担がかかります。

肥満の改善



☆食事療法 ①食事は三食バランスよく、腹八分目に ②間食は控える ③たんぱく質(脂肪)の少ない肉、魚、豆製品、牛乳は十分に ④新鮮な野菜と海藻を十分に ⑤味付けは薄味に

☆運動療法 必要なエネルギー以上に食べると肥満につながります。適度な運動でエネルギー消費に努めましょう。

☆定期的に体重を量りましょう
標準体重(kg)の目安は(身長cm-100)×0.9がわかりやすく、このプラスマイナス10パーセント内がほぼ正常範囲です。太ってきている人は身長から100を引いたくらいを目安にして、徐々に正常範囲にしましょう。

戸籍の窓から

たかさこー円満に

- ◎新婦 小幡 敏男 仁田
- ◎新婦 小林 美代 岩手県から
- ◎新婦 水落 誠 仁田
- ◎新婦 村越 礼子 野口から
- ◎新婦 登坂 浩 岩瀬
- ◎新婦 川崎 栄子 越ヶ沢から
- ◎新婦 丸山 克巳 新町新田
- ◎新婦 鈴木 久子 秋田県から
- ◎新婦 中條 賀文 大倉
- ◎新婦 小山 喜子 東京都から

うぶ声—おすこやかに

- 小林 大昌 立雄 三男 中仙田
- 平野 正晃 角榮 長男 四郎兼



かわにし 俳壇

太田白南風選

三領 高橋たかし
冬めくや朝な夕なな挨拶に
送り来し鮭を吊して歳を待つ
句友には雅号の宛名賀状書く
暖冬の囲い馬鈴薯の芽も掻きて
年新人それぞれ初詣

霜条 星名 星光
みぞれ降る日の重なりて時雨つ、

- 中島 妙子 勝志 長女 上野
- 小海 裕美 光雄 長女 小根岸
- 大久保 峻 正重 長男 野口
- 五十嵐哲也 文治 二男 野口
- 南雲 慶子 幸男 二女 木島町
- 渡貫 正嗣 利夫 二男 新町新田
- 村越 賢一 久吉 長男 野口
- 五十川真美 雅幸 長女 沖立
- 丸山健太郎 松一 長男 高原田
- 高橋 久美 敏夫 長女 三領

昇天—ごめい福を祈る

- 渡邊 幸治 四郎兼 四一
- 片桐 愛藏 野口 六六
- 山田 新一 仁田 六九
- 茂野 松平 藤沢 七二
- 中島 曠 上野 七二
- 蔵品 カツ 上野 七五
- 佐藤 カネ 沖立 八三
- 星名タツウ 伊友 七九

落葉して枝達しく残りたる

時雨る、よ道路工事の旗を振り
時雨つ、日射せる空の虹か、る
冬虹の立ちつかの間に消え失せし

岩瀬 小川 益栄

昨日雪今日小春日に年の暮れ
雪しまき外にひしめき曇る玻璃
地に伏せし枯諸草に根雪来る
追羽根や新妻の組勝りつ、

赤谷 登坂 酔片

葉牡丹や講師迎ふる演壇に

葉牡丹の渦の芯より燃ゆごとし

葉牡丹を移して土の新しき

心配ごと相談

- ・1月12日……橘出張所
- ・1月19日……克雪センター
- ・1月26日……総合センター
- ・2月2日……上野連絡所
- ・2月9日……橘出張所

12月の交通事故発生件数

件数	死者	傷者	死者	傷者
19	2	2	16	1
(2)	(1)	(0)	(0)	(1)
(1)	(0)	(0)	(0)	(1)
(0)	(0)	(0)	(0)	(1)
(0)	(0)	(0)	(0)	(1)

()内は前年比較

- 丸山 テリ 学校町 八六
- 保坂チャウ 沖立 八八

赤谷 登坂 紅葉

かんじきを吊す火棚の煤こぼれ
元日の少し広めの道を踏む

元町 上村 トミ

ことごとく裸木となり雪をのせ
曲り釘そのま、打ちて冬囲い

雪卸し一度もせずに明の春
雑着簪柳の香り新しき

赤谷 小川 秀

葉牡丹に南天添えし床の間に

三人の子の睦じくクリスマス